



令和7年度

横浜氷取沢高等学校

グローバル教育研究推進指定校 公開研究授業

～多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、

他者への関心や共感力を育てる指導の研究～

日時 10月24日（金）13：40～16：45（受付開始13：00）

第Ⅰ部 公開授業 5時間目 13：40～14：30

6時間目 14：40～15：30

第Ⅱ部 研究協議 15：50～16：20

第Ⅲ部 全体会 16：30～16：45



ご挨拶

本日は横浜氷取沢高校公開研究授業にお越しいただきありがとうございます。

「グローバル教育研究推進校」として、本年度再指定を受け、4年目を迎えます。この間、本校では「国際的な視野を持ち、主体的に考え、探究することができる力」・「自らの課題に挑戦し、自己を伸ばし続ける姿勢をもつ力」・「多様な価値観を尊重し、他者と協働して問題解決できる力」の育成を目指し、それぞれの教科特性を踏まえた指導の研究を行ってきました。

本年度は、全教科における教科横断的な取り組みとして「多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、他者への関心や共感力を育てる指導の研究」というテーマを設定し、授業改善を行って参りました。取組成果をご覧いただき、多くのご助言をいただけましたら幸いです。

令和7年10月24日
神奈川県立横浜氷取沢高等学校
校長 坪内 幸子

講座一覧

5 時間目

講座 No.	教科	科目 (対象生徒)	授業者	会場
①	地歴公民	地理総合 (1 - 5)	木目田 佑介	1年5組教室 (北棟4階)
②	保健体育	保健 (1 - 3)	上土井 美樹	1年3組教室 (南棟4階)
③	英語	英語コミュニケーション II (2 - 1)	増島 香代	南4-3教室 (南棟4階)

6 時間目

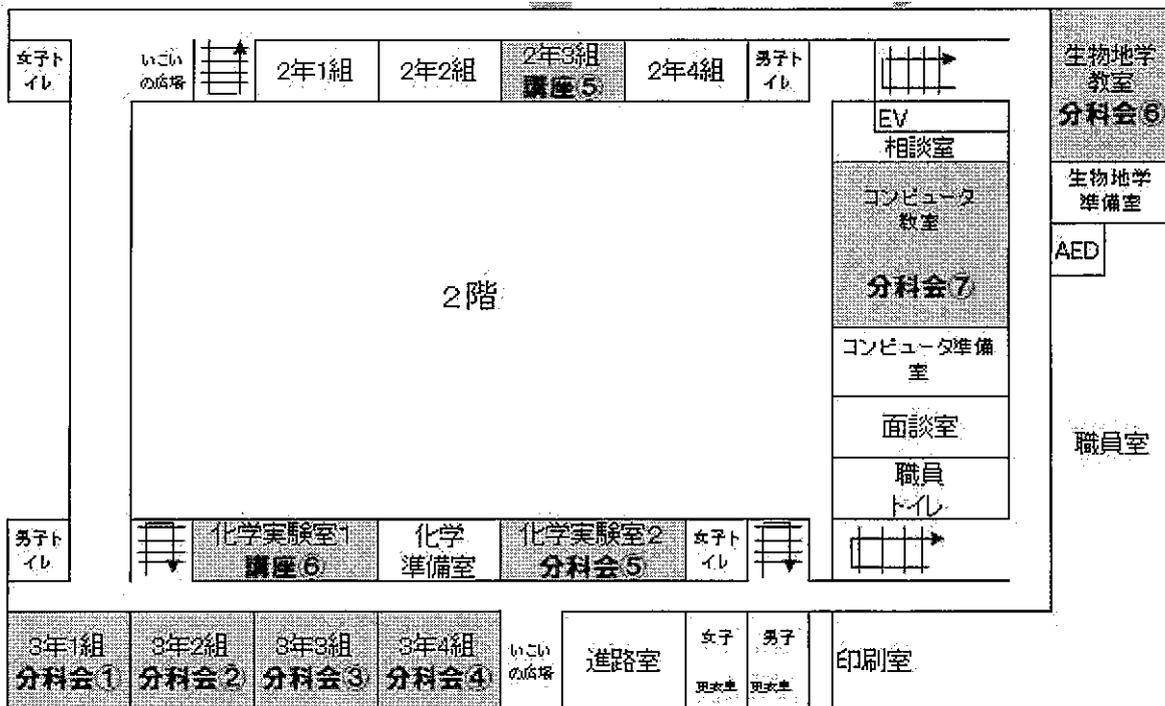
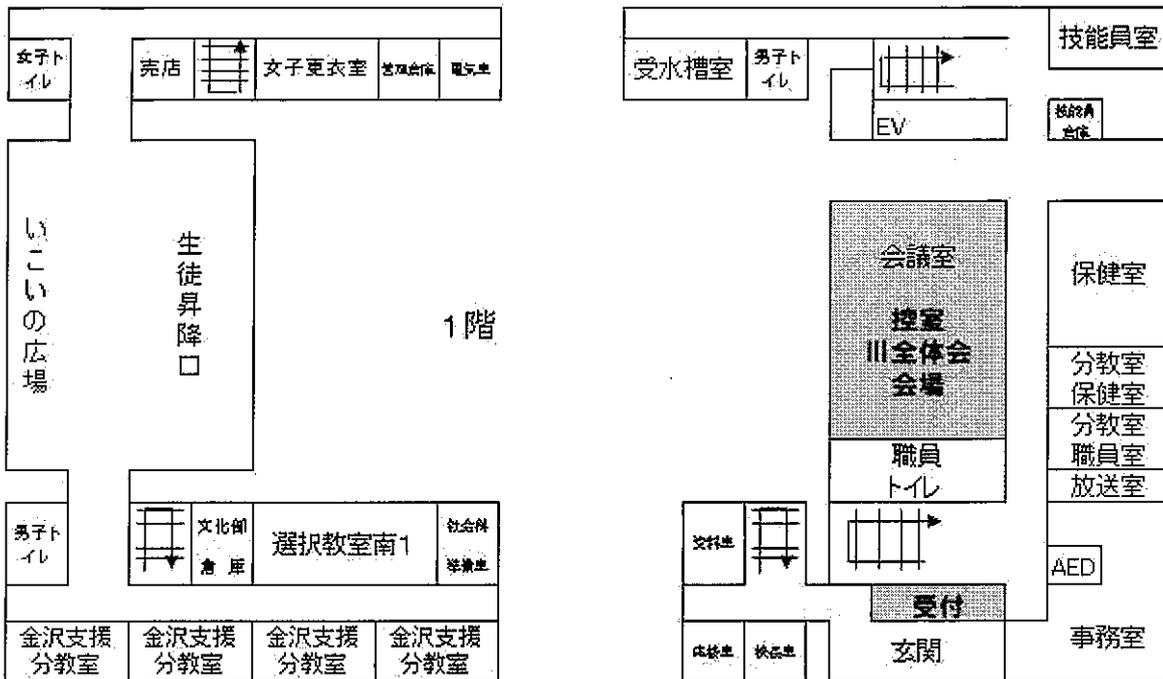
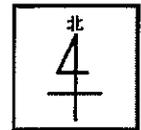
講座 No.	教科	科目 (対象生徒)	授業者	会場
④	国語	古典探究 (2 - 7)	榎本 明彦	2年7組教室 (北棟3階)
⑤	数学	数学 B (2 - 3 選択)	内田 雄斗	2年3組教室 (北棟2階)
⑥	理科	化学基礎 (2 - 1)	杉山 公保・片山咲良	化学実験室 I (南棟2階)
⑦	芸術	音楽 I (1 - 6)	西村 のどか	音楽室 (東棟4階)
⑧	英語	英語コミュニケーション I (1 - 2)	土江 康裕	1年2組教室 (南棟4階)

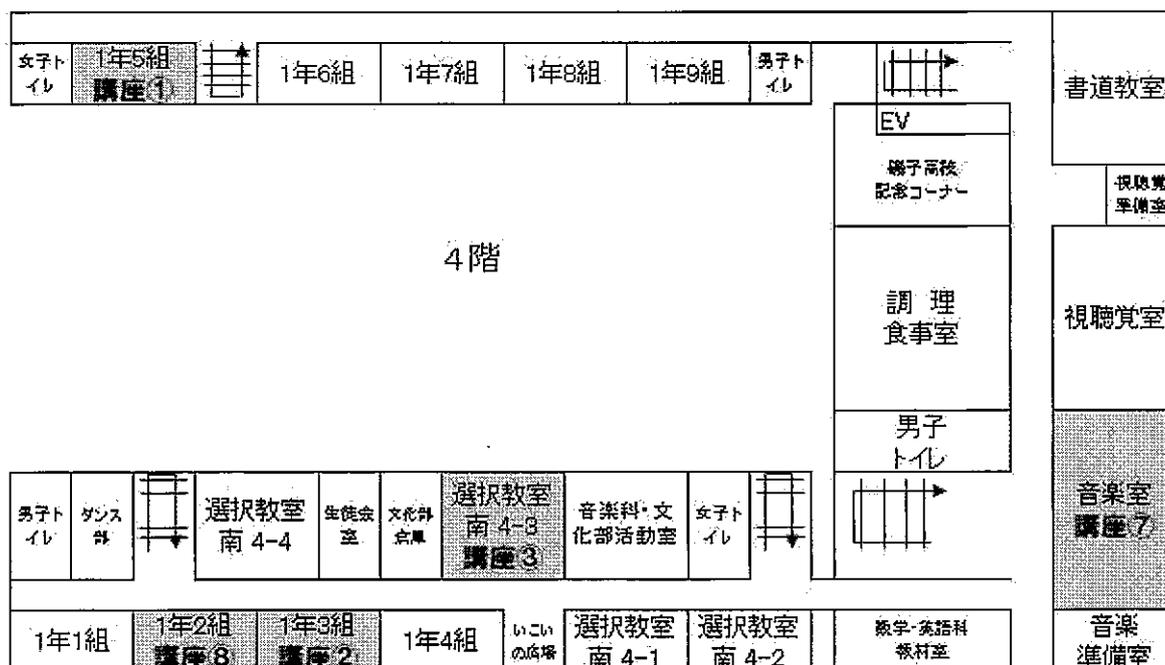
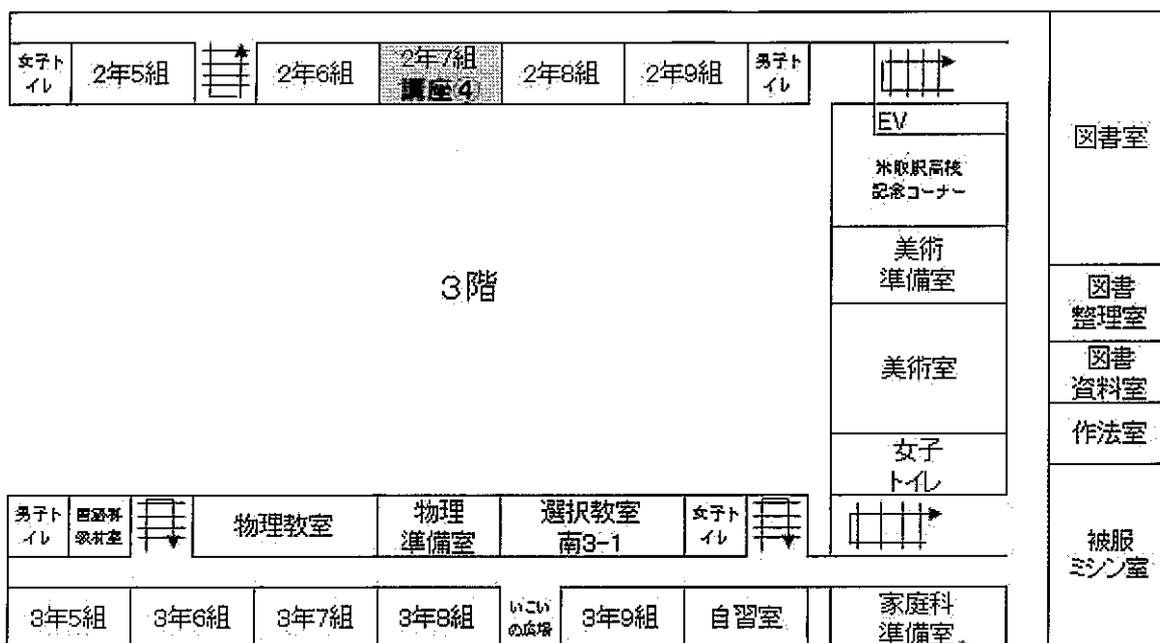
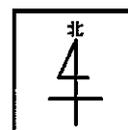
分科会

	教科	会場
分科会①	国語	3年1組教室 (南棟2階)
分科会②	地理歴史・公民	3年2組教室 (南棟2階)
分科会③	数学	3年3組教室 (南棟2階)
分科会④	理科	3年4組教室 (南棟2階)
分科会⑤	保健体育	化学実験室 2 (南棟2階)
分科会⑥	外国語(英語)	生物地学室 (東棟2階)
分科会⑦	芸術・家庭・情報	コンピュータ教室 (東棟2階)

分科会一覧

公開研究授業 会場図





令和7年度 公開研究授業 授業案

講座①

教科	科目	クラス	時間	授業者
地理歴史・ 公民科	地理総合	1年5組	5時間目	木目田 佑介

単元名
経済統合による生活文化の変化 ～EUと周辺諸国～
授業研究テーマに対する手立て
他の地域と私たちの生活文化を比較した際に気づいたことを記録を残す機会を設定する。また、この記録をもとに相手（聞き手・読み手）が理解できるように、自らの言葉で特徴をまとめる活動を行う。
本時の内容・流れ
<p>1. 旅行プランの発表</p> <p>前時で考えた「日本国内旅行プラン」と「ヨーロッパ旅行プラン」を班内で発表するこの時、他者の発表を聞くときにメモし、気になったことを書き留める。</p> <p>2 個人で班内の他者が考えた旅行プランを比較する。</p> <p>日本とヨーロッパにおける共通点・相違点をまとめる。</p> <p>3. 4人班で意見の共有</p> <p>班でそれぞれが記したことを共有し、共通点・相違点を確認する。</p> <p>4 問いを生徒自ら立てる</p> <p>今回の「単元を貫く問い」を生徒一人ひとりが考え、今後の授業内で自らの問いに答えられるようにする。</p>
手立てに関する工夫
他者の発表から自らの考えを持ち、自らの意見をグループに共有する時間を設ける。「旅行」という側面で考えることにより、他の地域の生活文化を知るきっかけとする。
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の授業を使って導入を行ったが、1回で問いを立てるにはどのようにすれば良いのか？ ・ 生徒が主体的に問いを立てるために必要なことは？

講座②

教科	科目	クラス	時間	授業者
保健体育	保健	1年3組	5時間目	上土井 美樹

単元名
現代社会と健康 精神疾患からの回復
授業研究テーマに対する手立て
精神疾患の回復について、習得した知識を基に、個人の取組や社会的な対策を整理し、他者の意見を理解し、自分の意見をまとめられるような問いかけを行う。
本時の内容・流れ
<p>1 導入 【発問】「回復」と聞いてどのような状態を思い浮かべますか。</p> <p>2 専門家による支援と治療について理解する。 具体例を挙げながら理解を深め、プリントにまとめる。</p> <p>3 社会環境の整備について考える。 過去と現在の地域におけるケアの変化について個人で考えたのち、グループ内で共有し、理解を深める。</p> <p>4 精神疾患と「偏見」について考える。 具体例をもとに「偏見」について考え、精神疾患に対する偏見のない社会について意見をまとめる。個人で考え、グループで共有しまとめた内容をクラスで共有する。</p>
手立てに関する工夫
精神疾患からの回復について興味を持つことができるように導入での発問を工夫する。精神疾患から回復するために個人の取組や社会的な対策を知りそれについての他者の意見や自分の意見をまとめ、説明できるような問いかけを行う。
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
他者の意見を理解し、自分の考えを深めることができる内容になっていたか。

講座③

教科	科目	クラス	時間	授業者
外国語(英語)科	English Communication II	2年1組 (会場 南4-3)	5 時間目	増島 香代

単元名
Lesson 6 An Irish Poet on a Mission (Blue Marble EC II, Suken Shuppan)
授業研究テーマに対する手立て
<p>英語を用いて主要な概念を導入し、事実関係、比較、トピックの人物の動機に関する推論能力を向上させるとともにディスカッションを促進し、和歌のテーマ（自然、別離）が普遍的であることを通して、なぜそれが「文化の橋」となり得るのかを考察させる。和歌の普遍的なイメージと生徒自身の経験に関連づける</p> <p>題材について理解させた上で生徒の意見や考えを問う発問をすることで、他者の価値観を認め、自分の考えを表現する姿勢を養う。</p>
本時の内容・流れ
<p>Step 1: Review & Transition (5 min)</p> <ul style="list-style-type: none"> Objective: Students will recall MacMillan's early motivation and transition to his initial conflict. <p>Step 2: Conflict & Resolution (10 min)</p> <ul style="list-style-type: none"> Objective: Students will identify MacMillan's initial prejudice and how his success inverted the situation. <p>Step 3: Aesthetics Comparison (15 min)</p> <ul style="list-style-type: none"> Objective: Students will compare and contrast Japanese and Western concepts of beauty. <p>Step 4: Discussion & Synthesis (15 min)</p> <ul style="list-style-type: none"> Objective: Students will synthesize MacMillan's role with the cultural concept of transience. <p>Step 5: Consolidation & Reflection (5 min)</p> <ul style="list-style-type: none"> Objective: Consolidate learning by reflecting on the lesson's key takeaways.
手立てに関する工夫
<p>Step 2 課題の逆説的な面白さ（困難→成功）を明確にするため、「不愉快な経験」と「嬉しい驚き」という感情の対比を読み取らせることで、ストーリーに生徒を引き込む。</p> <p>Step 3 「美意識」という抽象的な概念の理解を確実にするため、日本（短命）と西洋（不滅）の概念を直接的に対比させる。これにより、単なる語彙の定義ではなく、「人生を変えた出会い」の文化的・哲学的な核心を深く理解させる。</p> <p>Step 5 固まる知識の定着に留めず、「最も印象に残った点」を尋ねることで、生徒の感情的な反応と知的な興味を引き出し、次回の学習への意欲を喚起する。</p>
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
<p>本時は、日本の美意識や文化の核心を全て英語で扱うというチャレンジングな試みを行っている。研究協議では、この「オール・イン・イングリッシュ」での日本文化の扱いの難しさや可能性について、協議での意見や質問を幅広く歓迎する。特に、生徒の概念的理解を深めるための効果的な発問方法について、活発な意見交換をしたい。</p>

講座④

教科	科目	クラス	時間	授業者
国語	古典探究	2年7組	6時間目	榎本明彦

単元名
『平家物語』における様々な価値観を味わい自己を見つめよう
授業研究テーマに対する手立て
登場人物の発言や行動から、それぞれの人物の価値観や時代的価値観を考え、現代を生きる自分自身と比較する中で、他者の価値観を理解しようとする態度を養う。
本時の内容・流れ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表の手順と評価の確認 2. 班に分かれて発表の準備を行う (既に発表のスライドや原稿は完成している予定) 3. 発表 各班4分以内での発表を行う。 発表を聞く側は、気になるところや気に入ったフレーズをメモする。 4. 投票 自分の気に入った人物や場面をメモを見ながら1つ選び投票をする。 5. まとめ 一番票の集まった人物や場面を生徒に発表し、それぞれが選んだものと理由について発言をさせ、クラスで共有する。
手立てに関する工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・「推し」という形で考えさせることで、どうすれば発表を聞く人の心を動かせるのかやその人物の作中における役割を考えられるようにした。 ・同一人物ではなく、複数の人物を候補としてランダムに分担することで、様々な価値観を持った人物がいることへの興味や自分自身と比較する対象を多く設定できるようにした。
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分自身と比較することができていたか。 ・発表を聞いて新たな価値観と出会い、改めて自己を見つめなおすことができていたか。

講座⑤

教科	科目	クラス	時間	授業者
数学科	数学B	2年3組 (選択)	6時間目	内田 雄斗

単元名
第1章 数列 フィボナッチ数列
授業研究テーマに対する手立て
生徒自ら体感することで知的好奇心を育み、社会で数学が活用できる事を知る。また、自身の考えを共有する時間を設けることで、相互理解を深め、協働する姿勢を育む。
本時の内容・流れ
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィボナッチ数列の確認 フィボナッチ数列のルールを理解させる。生徒間で考えを共有させ、自らの考えをアウトプットする時間を設ける。 2. 個人ワーク フィボナッチ数列の美しさについてワークを通して体感させる。 道具を使って、自身の価値観も楽しむ。 3. 自然界等での存在 フィボナッチ数列が自然界でも活かされている事を紹介し、知的好奇心を育む。 4. 一般項を求める考えについて知る。 計算過程等、協働する時間を設けて一般項を導く。
手立てに関する工夫
フィボナッチ数列の美しさについて、自ら考え作業する時間を設ける事で、気づきや発見を通して数学の面白さを体感させる。また、自分で考える時間と、考えを共有・協議する時間を区別する事で、他者との考えの違いや、自身の考えを表現する力を育む。
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
単に数学の学びだけでなく、美術や自然界と数学の関係を知り、数学が面白いと思わせる授業ができたのか。

講座⑥

教科	科目	クラス	時間	授業者
理科	化学基礎	2年1組	6時間目	杉山公保・片山 咲良

単元名
物質と気体の体積（アボガドロの法則）
授業研究テーマに対する手立て
化学的な知識を活用し、日々の生活での問題解決や環境課題を理解するスキルを身に付ける。実験・観察をとおして、生徒間での主体的・対話的な学びと知識の集積・理解を促す授業展開を行う。
本時の内容・流れ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験中の危険回避についての確認 今回の実験内容に関連する危険回避についての説明（可燃性気体を扱うこと）。 2. アボガドロの法則の復習 実験の内容理解に必要な、背景となる知識を確認。 3. 実験操作とその留意点の説明、この実験の考え方を解説。 ワークシートを投影して説明。 実験操作とアボガドロの法則の関連性を説明。 4. 実験操作 実験操作を行い、各実験グループの測定結果をロイロノートを使い共有する。 5. 考察・まとめ 共有した測定結果から、試料気体の分子量をもとめ、試料物質を推定する。
手立てに関する工夫
コミュニティの中で「物の量」を計るために単位が存在し、コミュニティの拡大に伴い単位の共通化がおこなわれた結果、国際単位系が制定されたことや、SI単位の基本単位のひとつである物質の量（mol）の元となったアボガドロの法則を題材にした実験をとおして、学習内容に興味を持たせるとともに、測定結果を他のグループとの共有することで測定値の限界性（有効数値）に気付かせる。また、自分自身で考えるための発問として、測定した分子量から試料物質を推定させ、物質についての理解を深められる構成にした。
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
生徒が実験内容（測定値や考え方）を共有することができていたか。 生徒の考察を引き出し、科学的な思考力を育てるための工夫について。

講座⑦

教科	科目	クラス	時間	授業者
芸術科	音楽Ⅰ	1年6組 (会場 音楽室)	6時間目	西村 のどか

単元名
箏の特徴を生かしながら曲のイメージに合った演奏をしよう
授業研究テーマに対する手立て
生徒が親しみやすい題材を取り入れ、積極的にグループワークを取り入れながら強弱や速度記号が楽曲にどのように作用しているのかを感受することで知識を取り入れ、演奏・創作・鑑賞活動に自ら知識を生かす活動を行う。
本時の内容・流れ
<p>1. 全員で前時の復習「さくらさくら」を演奏する 教員は歌詞の無い後奏部のイメージを考えながら演奏するように伝える。</p> <p>2. 個人で後奏部の曲のイメージを考え、ペアで共有する ロイロノートで配布したワークシートを使用し、生徒は個人で意見を考えた後、ペアで共有する。</p> <p>3. 「さくらさくら」の歌詞の意味を理解する 教員がモニターを使用し説明しながら、生徒が歌詞の意味を理解する。</p> <p>4. 曲のイメージに合った後奏部の演奏方法を考え、練習する。 今まで学習した強弱や速度について復習を行い、教員が例(桜の花びらがぼつりと落ちていくイメージのように最後の「合わせ爪」は間をおいてから音を鳴らすなど)を提示しながら、ロイロノートで配布したワークシートを使用し、生徒は個人で意見を考えた後、ペアで共有する。意見共有後、イメージに合った奏法が出来るようにペアで練習をする時間を設ける。</p> <p>5. 本時の振り返りを行う</p>
手立てに関する工夫
<p>工夫① 日本の伝統音楽の中でも親しみやすい「さくらさくら」を題材に取り入れることで、生徒が興味・関心を持ちやすい工夫を行い、生徒に主体性を持たせる。</p> <p>工夫② ペアでの活動を取り入れることで、共に助け合い学び合う力を育成するとともに互いの意見を尊重し合う力を身に付けさせる。</p> <p>工夫③ 歌詞の無い後奏部を題材にすることで、言葉ではなく箏独自の奏法が曲にどのように作用しているのかを感受し、今まで学習してきた強弱や速度を活用しながら自身のイメージに合った「さくらさくら」を演奏出来る取り組みを行う。</p>
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
<p>① 今回の授業を情報・家庭科や他の教科と教科横断的な要素で授業を行うとしたらどのような授業が行えるのか。</p> <p>② 今回の授業をさらに音楽Ⅱで行うとしたらどのような活動を行うことが出来るか。</p>

講座⑧

教科	科目	クラス	時間	授業者
外国語(英語)科	英語コミュニケーションⅠ	1年2組	6時間目	土江 康裕

単元名
Lesson6 Serendipity
授業研究テーマに対する手立て
各単元の導入で題材に関する生徒の意見や考えを表現させるとともに、題材について理解させた上で生徒の意見や考えを問う発問をすることで、他者の価値観を認め、自分の考えを表現する姿勢を養う。
本時の内容・流れ
<p>1. オーラル・イントロダクション</p> <p>Lesson6で学んできた海外のSerendipityの3事例を復習し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな特徴をもつ人が、Serendipityを引き起こすことができるかをペアで考えさせる。 <p>2. 日本国内にある、Serendipityの事例を2つ（チキンラーメン・めぐリズム）紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チキンラーメン（安藤百福） <ul style="list-style-type: none"> →家で奥さんが天ぷらを揚げてのを見て 「油で揚げればラーメンを長持ちさせられるかも！」とひらめく ・めぐリズム（忽那公範） <ul style="list-style-type: none"> →美容院の蒸しタオル・居酒屋のおしぼりを顔にあてたときの気持ちよさから 「蒸気を使ったリラックsgグッズができるかも！」とひらめく <p>3. 安藤氏、忽那氏に共通するSerendipityを生み出した人の特徴を考え、まとめる。</p> <p>4. 「2」～「3」の要約文を完成させ、一度コーラスリーディングを行う。</p> <p>5. 要約文をAIツールに入れ、個々でオーバーラッピングを行う。×2回 （あくまで「単語レベル」でのスピーキングの正確さを養う）</p> <p>6. 事前にALTに話してもらった要約文の音源を聞き、注意すべき箇所を解説した後に、 個々でオーバーラッピングを行う。×2回 （リズム・つながり・強弱・ポーズを含め、「文」が相手に伝わるためのスピーキングスキルを養う）</p> <p>7. 「5」と「6」でそれぞれどのような点の改善ができたか、をペアで振り返る。</p>
手立てに関する工夫
導入でSerendipityについて復習するとともに、そのようなイノベーションを引き寄せるためには、どうすべきなのか、と問いかけることで題材を自分の生活に引き寄せて考えるよう促した。また、教科書で触れられていない国内の事例とその人物像を紹介することで、問いを考える際のヒントとなるよう設計した。後半はスピーキングスキルを向上させる仕掛けとして、①単語レベルの正確性向上（AI活用）、②文全体レベルでの伝達精度の向上（リアルな教員による指導）に分けて実践し、AIが得意な領域と、教員によるリアルな指導が活きる領域を相互補完できるよう行った。生徒には振り返りを通じて、それぞれを自分の英語力向上のどの部分に活用できるのか、把握できるよう設計した。
その他(研究協議で協議したい内容など)・教科横断的な要素
<ul style="list-style-type: none"> ・(今回の) AIの支援が有効な領域 と そうでない領域の見極めは正しかったか。 ・今後、生成AIの英語教育における利活用の考え方について協議したい。

指導・助言者

教育局指導部 高校教育課 国際・情報教育グループ

・岡野 裕子 指導主事 <外国語(英語)科>

・鈴木 拓郎 指導主事 <外国語(英語)科>

本日は、横浜氷取沢高等学校公開授業にご参加いただきありがとうございました。

横浜氷取沢高校グローバル教育研究推進チーム